

尾瀬

第32号

尾瀬の自然を守る会

愛する尾瀬

初代環境庁長官大石武一氏の前橋での講演

去る六月八日から十二日にかけて、群馬県前橋市で行われた「尾瀬今昔写真展」の二日目、六月九日に、前橋市中央公民館に初代環境庁長官大石武一氏をお迎えして、自然保護・軍縮・核反対・平和についての講演が行われました。会場には約三百名ほどの人が訪れ、大石先生の熱弁に耳を傾けていました。

以下二号に分けて、その時の講演の要旨を掲載いたします。

ただいま紹介にあずかりました大石武一です。

本日は多くのみなさんの前で話をさせていただき光榮に存ります。また企画された事務局の皆様にも感謝いたします。私は講演の後尾瀬に入る予定でありますので、この様な歩きの格好で話をさせていただきます。また私は尾瀬にはこれまでに二回しか行つておりません。昭和四十六年の環境庁長官の時と、昭和四十八年の平野長靖君の納骨式の時です。ですから尾瀬についての私の気持をお話するこ

とでお許しください。

今回の講演の件では主催者の内海事務局長から依頼と共に尾瀬の入山を勧められ、登山用の道具をかき集めて前橋までやつてしまひました。今月の四日以後藤允君の「尾瀬一山小屋三代の記」の出版記念会に参加しました。そこで挨拶で、私は尾瀬ほど国民に知られ愛されている素晴らしい環境は他にないと話

ました。尾瀬は過去において何回も開発に狙われ、利権の対象にされました。尾瀬を愛する人々の努力でだいたい無事に今日まで来ました。ただ尾瀬沼に砂浜があつた時が一番素晴しかったという話を聞いております。これは、昭和二十三年ごろに沼尻に堰堤を作り、沼の水位を上げたためになりました(片品川への分水のため)。実に惜しいことをしましたが、そのころは敗戦で経済復興が急務であったので、これを防ぐ術が無かつたのだとも思います。今さらながら残念で仕方ありません。

私は高校のころ身体が弱く、登山には行きたいと思いませんが、尾瀬には行きたいませんでした。昭和四十六年に初めて尾瀬に入山した時は環境庁長官として公務で出張してきたわけですが。私が長官に就任する四日前に環境庁が発足しており、山中君が戸籍上では初代とい



講演する大石先生

ました。そこで私は鳩待峠から尾瀬ヶ原に入る時に、後から悪口を言われないように至仏山に登りました。私は学生時代に植物採集で山登りをしてましたから、植物や山は少しは知りましたので、時の佐藤総理の所に仕事を見付けて、閣僚に着きたいのでよろしくと頼みに行きました。その時に自分としては情熱の傾けられる部所として環境庁を考えおりましたので、その事をはつきり總理に申し上げました。そして願い通り環境庁長官になりました。そのころは今と違つて日本に環境行政などありませんでしたので、私はなんとかして日本の自然を守りたいという気持がありました。記者会見の時もそのよう

に話しました。それでは長官に就任してたの私がなぜ尾瀬に来たのか話をしますと、昔から親しくしていた新聞記者の一人が、若い

至仏山に登る時は良かったのですが、降りる時に雷があり滝の中をすべるようになりました。山の鼻では片品村の村長さんに腰をもんでもらつたり、新聞記者とは風呂に入つたり貴重な経験をしました。三平峠から問題の道路を見ましたが、非常に痛々しいあり

したのです。彼の話だと観光道路が作られ、このままと尾瀬は完全に破壊されてしまう、何とか助けてはもらえないかという事でした。その時は現場を見ていないので、自分の目で確かめて返事をすると約束しました。そういう事で昭和四十六年七月三十日に尾瀬に来ました。その時は珍しいと新聞記者が多数取材に来ていました。

そこで私は鳩待峠から尾瀬ヶ原に入る時に、後から悪口を言われないように至仏山に登りました。私は学生時代に植物採集で山登りをしてましたから、植物や山は少しは知りましたので、時の佐藤総理の所に仕事を見付けて、閣僚に着きたいのでよろしくと頼みに行きました。その時に自分としては情熱の傾けられる部所として環境庁を考えおりましたので、その事をはつきり總理に申し上げました。そして願い通り環境庁長官になりました。そのころは今と違つて日本に環境行政などありませんでしたので、私はなんとかして日本の自然を守りたいという気持がありました。記者会見の時もそのよう

さまでの、道路工事を止めようとした。それで案内してくれた長靖君の耳もとで工事の中止を約束しました。東京にもどつて総理の二人だけの時に、国立公園の観光



尾瀬今昔写真展にて

受講者の声

第六回養成講座

受講者よりのレポート

自然と人間

日本は火山が多く、海岸線も複雑であることから、景勝地が多く存在している。国も自治体もそれらの保護・保全に取り組んでいる。これらの自然保護の動きは、現在の生産活動と深くかかわりあっている。しかし、現在の自然保護は目に見える所だけで、目につかない所にはおよんでいない。

今回の研修では、尾瀬の自然を開発から守ること以上に、訪れる人々のモラルに問題があると思った。自分の体力も目的もなしに、旅行会社の企画したツアーに安易に参加している。車で、入り口まで来て、決められた木道の上を歩き、どこまで行ったかを自慢している。観光地巡りと同じである。これでは、人目に付かなければ悪いことでも平気で始めるだろう。

自然が何百万年もの歳月をかけて造り上げた景観を自分で改めたり、環境を汚す、一企業なら生産のためし山ごと切り倒してしまう。自分が利益満足のためで



養成講座現地研修

ではなく、全体・後世のことを考え、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが尾瀬を訪れた人々の心に焼き付くよう、私達の活動を生かしてゆきたい。

石川 喜三郎記

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考えさせられました。

自然公園の模範、魁として、自然と如何につきあってか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

されました。

紅葉の尾瀬から戻り、ある書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

ワイヤーの「灰とダイヤモンド」は、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

激しい思念が、この書籍に存しているのか、と。

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

されました。

紅葉の尾瀬から戻り、ある書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

ワイヤーの「灰とダイヤモンド」は、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

激しい思念が、この書籍に存しているのか、と。

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

されました。

紅葉の尾瀬から戻り、ある書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

ワイヤーの「灰とダイヤモンド」は、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

激しい思念が、この書籍に存しているのか、と。

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

されました。

紅葉の尾瀬から戻り、ある書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

ワイヤーの「灰とダイヤモンド」は、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

激しい思念が、この書籍に存しているのか、と。

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

されました。

紅葉の尾瀬から戻り、ある書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

ワイヤーの「灰とダイヤモンド」は、人間は自然と共生・共存すべきであるという考えが書店でみつけたのが、長靖氏の遺稿集「尾瀬に死す」でした。目次の中にアンジェイ・ワイダの「灰とダイヤモンド」の批評が載っているのを見て、強烈な懷しさを感じました。

激しい思念が、この書籍に存しているのか、と。

一、尾瀬との出会い 尾瀬に初めて私が訪れたのは、大学三年の時でした。労働法佐川一信（現在水戸市長）ゼミの夏合宿が戸倉の宿を借りて開かれ、二日間の熱っぽい討論のあと、仲間と尾瀬に向きました。三平峰を登り、樹々の間から尾瀬沼を見えたときには、嬉々として飛びあがつて叫んだものです。その日は、長蔵小屋に泊まり、小屋に置いてあった小さなビラを手にして、自然保護運動の存在を知りました。かつて、大石長官に尾瀬の保護を訴えた人が、私達の宿泊した山小屋の主人であつたことに驚かされました。しかし絶対に二十億ちかい金を出して途中まで作った道路を環境庁の一存で止める事は不可能に近かつたのです。しかし絶対に止めると決心した私は、当時の大井参事官に道路工事を中止させる法的根拠を調べさせました。やはり返事は環境庁にそのような権限はないといふ事でしたが、私は何度も調べさせました。

二、指導員養成講座にて 八月十七日から十九日まで三日間かけて歩いた尾瀬は、新鮮なものとして私の胸に刻みこまれました。尾瀬をこんなふうにじっくりと味わったのは、始めたでした。

内海先生、中島さんの話を聞き、歩きながら書きつけたレポート用紙を開くと、その都度の感動・驚きがよみがえってきます。一枚一枚のレポートから、その場の情景――オオシラビソの樹脂の新鮮な匂い、尾瀬沼の水力発電の取水口、コカナダモの繁殖、沼に進出していく植物群、山小屋のゴミ、屎尿の問題、裸地化した湿原等々――が思いだされます。

三、自分の問題として 尾瀬を如何に保護していくのか、考え方を私は教えていただきました。身近な自然と切り倒してしまう。自分の利益満足のためで

八月一日、上野13時34分発
佐渡3号に乗車、沼田駅に15時43分に着き迎えのバスで皆さんと一緒に、片品温泉ホテルに着いたのは、16時30分である。夕食後、自己紹介と行動予定、入山の為のオリエンテーションを行なった。

「尾瀬は初めて」の人が多く明日の出発を前に、室内は明るい雰囲気には包まれていた。参加の皆さんは、東北、中部、四国、東京の方で、それに福井の梶田添乗員さんを含む、男性七名と女性三十三名の計四十名の地方色豊かな団体である。指導案内は上野号史さ

夏季团体入山指導報告

んと私の二人であつた。
さあ！アキレスけんを良く
のばし、準備体操もして二日
早朝、全員元気に出発。川上
橋を渡り、山の鼻自然保護セ
ンターを見学の後、研究見本
園を一周したが、参考図書を
手に熱心に質問する人、植物
や山波にカメラを向ける人と、
とても熱心な人ばかりであ
る。

を実行する事です。人間一人のできる範囲はわずかなものでし、その上、得手、不得手がありますので、全員が同じ事をする必要はない、と思います。自然保護を考える人が多く集りその中で自分のできる事を実行すれば全体として、かなり大きな力になると思います。そして今私のできることは、自から他人の模範になるような行ないをもつて、自然保護に当る事。一諸に尾瀬に入山した仲間から一名で多く、自然保護を考える人達を作る事、又一名でも多く

自然保護を、わかりやすく訴え、自然保護に同調してもらえるようにする事です。

三番は、前記と重りますが、尾瀬に限らず自然保護を考える人を、一人でも多く作る事です。全国どこを見ても自然を守る事が完全に、できている所は無いようです。地域開発といら力に、ねじ伏せられている。私達の力は非常に小さいです。数に物をいわせる事が、できるように、自然保護の賛同者を一名でも多く作る事だと思います。

平井
敬治記

の説明は省略した。
下田代十字路で昼食、全員
体調を整えた後至仏山に別れ
を告げ段小屋坂の登りに向か
った。残念ながら數名の人に
疲れの色が見えたが、良くが
んばって無事通過した。やが
てモウゼンゴケに染まる沼尻
湿原で小休止。昭和二十四年
十一月十一日完成の尾瀬沼取
水ダム堰堤を説明した後、今
宵の宿、長蔵小屋に向かう。
墓れゆく大江川湿原は、黄
紫、オレンジ、白に彩られ
いた。その花の量は五年ぶり
だそうである。ちょうど絵を
画さに来ておられた等々力徹
郎先生に長蔵小屋でお会いし
た。

名の方が入会された。
工事進む奥鬼怒スーパー林道。尾瀬周辺の山々、沼や原も変っている。じりじりと傷をつけている自然を私達は手をつけないで守らなければならないことを痛感する。
伊藤 文子記

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び行動する“市民の会”であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田・田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は��けております。尾瀬を愛する皆さん、小さ

名の方が入会された。
工事進む奥鬼怒スーパー林道。尾瀬周辺の山々、沼や原も変っている。じりじりと傷をうけている自然を私達は手をつないで守らなければならないことを痛感する。

団体指導参加者の声

尾瀬の自然を守るために皆さんの執念のようなものを感じました。「守る会」には早速入会しました。

静岡市 木俣 陽吉

自然を愛する人々の心に触れて本当にうれしい旅行でした。「尾瀬に死す」の本を読んでおぼろげに書いていましたが間のあたりに見て益々尾瀬が好きになりました。

リーダーの方には、誠心誠意ご指導を載き、つねに細かいいサゼッションをあたえられ敬服して帰りました。会報を友人にも渡し、私共々入会します。

伊藤 文子記

静岡市 木俣 陽吉

名の方が入会された。
工事進む奥鬼怒スーパー林道。尾瀬周辺の山々、沼や原も変っている。じりじりと傷をうけている自然を私達は手をつないで守らなければならないことを痛感する。

団体指導参加者の声

尾瀬の自然を守るために皆さんの執念のようなものを感じました。「守る会」には早速入会しました。

静岡市 木俣 陽吉

自然を愛する人々の心に触れて本当にうれしい旅行でした。「尾瀬に死す」の本を読んでおぼろげに書いていましたが間のあたりに見て益々尾瀬が好きになりました。

リーダーの方には、誠心誠意ご指導を載き、つねに細かいいサゼッションをあたえられ敬服して帰りました。会報を友人にも渡し、私共々入会します。

伊藤 文子記

入会のお勧め

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び行動する”市民の会”であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田一田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は続けられています。尾瀬を愛する皆さん、小さな力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるように大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

会の活動 ○会報「尾瀬」の発行 ○自然観察会 ○自然保护員養成講座他 ○自然保護に関する調査研究、講演会など。

入会の方法 ○年会費(一月十二月)二、〇〇〇円を会員の会計へ振替でお納め下さい。

經元、氣、血、津、液、神、意。

け下山コースの三平時へ。
・途中岩清水のおいしい水
はとても好評であった。
日光白根山を前に、車道か
ら旧道に入り、10時大清水バ
ス停に全員無事に下山、迎え
のバスが来る10時30分まで、
お土産を買う人、ニオイコブ
シのバッジを胸にジュースを
飲む人と思い思いに・・・
今回参加の皆さんは私達
「守る会」に大変協力的で七

最終日の三日、4時30分小屋の前に集合、朝靄の中「やなぎらん」の咲く丘で蔓参をし大江川、尾瀬沼等を観察して朝食についた。6時30分、

紫 オレンジ 白に彩られて
いた。その花の量は五年ぶり
だそうである。ちょうど絵を
書きに来ておられた等々力徹
郎先生に長蔵小屋でお会いし

湿原で小休止。昭和二十四年十一月十一日完成の屋瀬沼取水ダム堰堤を説明した後、今宵の宿、長蔵小屋に向かう。

短い一時ではありましたが
熱心なお言葉をお聞きいたし
楽しい日々を過ごしました。
人生の一ページを飾る旅の恩
いでを残すことができました。
鈴鹿市 清水 育江

岐阜県 大塚 節子

岐阜県 大塚 節子

会の活動 ○会報「尾瀬」の発行 ○自然観察会 ○自然保护指導員養成講座 ○その他の自然保护に関する調査研究 ○講演会など。

入会の方法 ○年会費（一月一二二月）二、〇〇〇円を会員の会計へ振替でお納め下さい。会の主旨に賛同する方はどなたでも入会できます。

会の会計 ■ 260 千葉市作草部八六四一五〇三（松田方）振替：東京 6 - 138023

尾瀬の旅

萬葉の歴史そのまま
つがれいて
尾瀬の草木わが眼をうばう
木道を
あゆめば行手に燧岳みゆ
尾瀬沼の水面にうつる
燧岳
言葉もあらず夫とただづむ
尾瀬原にはやも初秋の
近づくや
日光キスグに蜻蛉群れつ
萬葉の歴史もちたる
岩清水
飲めば心にオアシスのあり
湿原にはのぼの咲きし
水芭蕉

今日来し旅に足らいていたり
(修学旅行新聞273号より:
神戸市 小川 日子)

例会報告	
九月	一日に開かれ、夏季中の諸行事の報告、九月以降の行事予定等の話し合がもたれた。また、例会終了後毎年本会から指導員を派遣している全国修学旅行研究協会の内山憲二氏を囲んで指導員として参加した方々との反省会がもたれた。
一、報告	1. 尾瀬団体入山指導(七月下旬)~八月下旬にかけ六回(本会より十二名指導員派遣) 2. 第五回尾瀬自然保護指導員養成講座(八月十七日~二十一日まで、八名受講、講師:内海広重・中島和人)

二、予定	
1. 指導員研修の件(十一月十七日)	奥鬼怒スーパー林道建設現場観察の件、栃木県側加仁温附近
3. 今後の例会予定、他	3. 出席者
三、出席者	梅山・中島・阿部・狩谷・長谷川・松田・坂井・椎名・水沼・星・上野・伊藤・堀米・児玉・河内・内海・十六名

1. 石川県白山の自然保護センターの活動と白山自然保護、スライド使用、内海広重	2. 奥鬼怒の現況について、スライドを使って、中島和人
自然保護指導員(第一回より) 室内研修会のお知らせ	水沼・狩谷・丸山・堀田・松田・中島・児玉・阿部・内海

3. 例会予定	講演・尾瀬をめぐる諸問題 講師・福島県自然保護協会会長 映画・夏の尾瀬ヶ原 東武興業KK監査役 内藤 実先生作品	生物教室 第一高等学校 第一高等学校 第一高等学校
十一月 十二月 三時三十分から。 いずれも事務局にて、午後 例会は情報交換の場です。 日頃考えていることなど持寄 つて話して下さい。例会 で皆さんに見せたいスライド 等ありましたら事務局まで。	十一月十日(土) 十二月八日(土) (主に事務局にて、午後 例会は情報交換の場です。 日頃考えていることなど持寄 つて話して下さい。例会 で皆さんに見せたいスライド 等ありましたら事務局まで。	十一月十日(土) 十二月八日(土)
それに、我々自身がそれ に見合うだけの質を持ち合わ すことが必要です。指導員各 位にあっては日々自己鍛錬に 励んでいることと思いますが、 ここで各位の成果の発表、お 互いの意見交換の場として、 研修会を企画しました。多忙	1年会員費 2,000円を添えて申し込みます。	16
それは、我々自身がそれ に見合うだけの質を持ち合わ うこと必要です。指導員各 位にあっては日々自己鍛錬に 励んでいることと思いますが、 ここで各位の成果の発表、お 互いの意見交換の場として、 研修会を企画しました。多忙	名前(ふりがな)	男 女

入会申し込み書	年 月 日	16
1年会員費 2,000円を添えて申し込みます。		
名前(ふりがな)	男 女	
現住所	自宅電話()	
〒()	年 月 日	電 話()
M T S	勤務先	年 月 日
編集部では皆様の声を募集 しています。尾瀬へ行つての 感想、気付いたこと、など事 務局までよせて下さい。本号 の発行が大変おくれ、申し訳 けございません。	電話	発行者
伊藤文子・上野号史・岸好人 阿部秀利・以上の十二名です。 御苦労様でした。	T 156 東京都世田谷区桜三丁三十三 一 東京農業大学第一高等 学校生物教室 内 43	尾瀬の自然を守る会会報 第三十一号 昭和五十九年 十月